

「トトロの森」管理に苦心

狭山丘陵に56カ所10万5000平方メートル

宮崎駿監督のアニメ映画「となりのトトロ」のモデルになった狭山丘陵(埼玉県、東京都)の環境保全団体「トトロのふるさと基金」(埼玉県所沢市)が、取得した森林「トトロの森」の管理に苦心している。1990年の団体創設から30年以上が経過したが、取得地が増える中で活動に関わる人材の不足や収入の減少が続き、管理が行き届きにくくなっている。

News 展望 潜望鏡

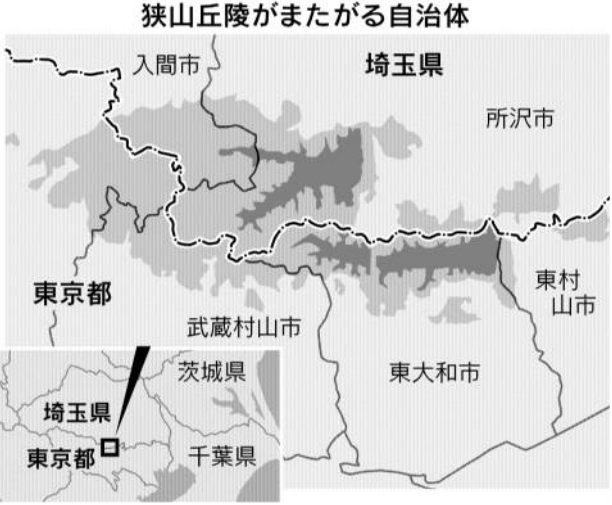
環境保全活動への関心も高い宮崎駿監督の賛同を得て名付けられた。所沢市内の「トトロの森1号地」など自然豊かな森林は映画の名場面を想起させる「聖地」として、宮崎アニメのファンから高い人気を誇るが、近年は取得

団体創設30年、増える取得地 人材不足や収入減

地の増加に伴い、トトロの森の保全管理が難しくなっている。最大の理由は、取得地の増加に管理側の人の確保が追いついていないためだ。トトロの森の保全管理は基金の職員数人の他に協力団体、有志のボランティアなどからなる。1年間で延べ1千人程度が関わっているが、「年を追うごとに管理の負担が増し、人は足りていない」(同基金の荻野豊事務理事)。新型コロナウイルス禍で管理に参加する人の数が減ったことも追い打ちをかけた。



東京都と埼玉県にまたがる狭山丘陵のトトロの森は近年取得地が増え、保全管理が追いつかなくなっている



員や収入の減少だ。同基金の活動に賛同する会員の数は20年ほど前に2千人を超えていたが、現在は約1200人。会費収入も減少傾向にある。ト

までの活動方針を定めた長期計画を策定。現在用途が決まっている3基金を統合し、土地の取得だけでなく、森の維持や管理にも多くの基金を回せるようにした。これにより、10年ほどで倍近くに膨れ上がった森林の保全管理費にも多くの基金を充当できるようにする。

限られた人材や資金を有効活用するため、森林管理方法も見直す。取得地全体をうまく管理する手法ではなく、危険な樹木の除去や生態系を残すための環境整備など優先度に応じて管理する方法に変更。同基金の拠点となる古民家「クロススケの家」で、森を紹介する

インフル流行のAI予測

県内全域に実験拡大

日立製作所は埼玉県やさいたま市と連携し、人工知能(AI)を活用して、埼玉県内のインフルエンザの流行度合いを予測するサービスの実証実験を始めた。流行状況を4段階で予測し、専門サ

日立製作所は埼玉県やさいたま市と連携し、人工知能(AI)を活用して、埼玉県内のインフルエンザの流行度合いを予測するサービスの実証実験を始めた。流行状況を4段階で予測し、専門サ

の有用性を確認する。今後は、インフルエンザ以外の感染症の運用も目指す。

実証実験は、産官学連携でさいたま市の浦和美園地区の街づくりに取り組み「美園タウンマネジメント協会」らが手掛ける「スマートシティさいたまモデル」の構築に向けた取り組みの一環。AIやデータを活用して、住みやすい街づくりの実現を目指す。

ひと彩たま

BENCHER代表 松本 芳行さん



自然がある。相当の穴場」とに退職し、20年10月、英語で笑う。

秩父のダム湖でカヌー周遊

自然豊かな山々に囲まれた埼玉県秩父市のダム湖で、2020年から「カナディアンカヌー」の周遊ツアーを手掛ける松本芳行さん。カヌーに乗って自然と野生生物の営みを体験してもらおうと、上場企業の役員を退職して事業会社を創業。新型コロナウイルス禍の中、地道に準備を重ねてきた。

埼玉

11月末、冬の到来を目前にした晩秋の秩父市。浦山ダムのダム湖「秩父さくら湖」の水面(みなも)が柔らかな陽光を受けて輝いた。静寂の中、松本さんがカヌーはゆっくりと湖上を進む。

湖の周りには野生の猿やシカが姿を現し、人を見て逃げることもなく、リラックスして暮らす。湖1周で約3時間。カヌー上から首都圏では珍しい自然の光景を楽しめる。都心から1時間半でこれほどの

川越の食べ歩き問題

地元大学生、解決へ協力



川越らしいキャラクターなどをデザインした「持ち帰りたくなる紙袋」を企画

埼玉県川越市で観光客の食べ歩きが増えている問題で、地元大学生が解決に協力し始めた。余った食品やごみを入れる「持ち帰りたくなる紙袋」を企画して蔵造りの町並みなどを訪れた観光客に配布したほか、今後も客へのアンケート

問題解決に協力し始めたのは、市内にキャンパスがある東京国際大学を中心とする地元大学生チーム。蔵造りの町並みにある川越一番街商業協同組合から現状などを聞いた後、川越らしいキャラクターなどをデザインした「持ち帰りたくなる紙袋」を企画。11月下旬に150枚を観光客に配布した。ごみが出た袋に入れて持ち帰るよう促すメ

東京国際大と商品開発

笹木醤油 学生が新企画提案

東京国際大学(埼玉県川越市)と老舗醤油(しよゆ)メーカーの笹木醤油(埼玉県川島町)は、14日、学生のアイデアを商品開発に結びつけるための企画発表会を同大学で開いた。学生が大学で

学生は3〜4人ずつ6チームに分かれ、笹木醤油が現在事業展開しているバウムクーヘンやしょうゆを観光地の川越で販売するための新商品企画をプレゼンテーション形式で発表した。

学生の提案は食べ歩きに適した「串バウムクーヘン」やパフェ、ドリンクなどを提案。独自の市

「持ち帰りたくなる紙袋」企画

ツセジカードやアンケートの案内も渡した。今後、アンケート結果などを踏まえて紙袋を改良したり、別のアイデアを試みたりする計画。例えば、食べた後にごみが出ていく食べ歩き商品の開発や、大学生が背負ったカゴにごみを入れるように呼び掛けながら商店街を巡る「マイ箸」のように観光客が常に持ち歩くマイ容器で食べ歩き商品を楽しんでもらう提案などが挙がっている。

東京・兜町にどぶろく醸造兼飲食店

日本酒メーカーの平和酒造和歌山県海南市は2022年5月に、ろ過していない濁り酒「どぶろく」の醸造所兼飲食店「平和どぶろく 兜町醸造所」を東京・兜町で開業する。店内で醸造したどぶろくと軽食を味わえる。同社初の県外飲食店で、発信力が強い東京で酒や酒造りの魅力をPRする。

店で醸造するのは同社の「平和どぶろく」で、米の品種を変えて複数種類を造る方針だ。飲食メニューとしてどぶろくのほか、同社の日本酒「紀土」やビール「平和クラフト」なども提供する。軽食には和歌山の食材の活用を検討している。カウンタ22席のほか立ち飲み用のテーブルを置く予定だ。

信玄ゆかりの神社の酵母でワイン

戦国武将・武田信玄のかつての居城「躰躰ヶ崎館(つづがきやかと)」跡に創建された武田神社で採取した酵母を使用し、甲府市産ブドウ100%で醸造したワイン「甲府ロゼスパークリング2021」が完成した。3000本限定で、16日から山梨県内で販売するほか、製造元の甲府ワインポート(甲府市)のオンラインショップでも販売する。

横浜にインテリアの倉庫型店舗

クルーザーの輸入販売を手掛ける安田造船所(東京・大田)のグループ会社、アトランティックカーズ同港は15日、インテリアのショールーム店舗を横浜市金沢区で開業する。倉庫型の店舗で新旧のインドア・アウトドアの家具や照明などを展示販売し、トレーラーハウスなどを設置してイベントも企画する。

世界の天気予報、5単位で提供

気象情報会社のウェザーニューズは法人向けに世界の天気予報を5キロメートルメッシュ(網の目)で提供するサービスを始めた。海外展開する企業が、需要予測や原材料の仕入れ計画に活用することを想定する。より精度の高い予報を提供することでマーケティングや従業員の安全管理などにも役立ててもらおう。

地域情報ヘッドライン

- 東北 宮城・女川、町民バス便を拡充
 - 信越 エプソン、「共創」掲げ脱自前主義
 - 北関東 高崎オーパ、若者集客へ定額サービス
 - 中部 ジェイテクト、電子部品向けに注力
 - 四国 サテライトオフィス、徳島で増殖
 - 九州 野菜工場や海産物の陸上養殖広がる
- ▶朝刊・夕刊→地域経済(有料会員向け)